

## 研修会報告

令和5年7月5日

文責：遺伝子・染色体部門長 青山 弥生

研修会テーマ「遺伝子検査の実情と今後の展望」

開催日時 令和5年7月1日（土）13：00～15：00

会場 Zoom ウェビナーによる Web 研修会

司会 東北医科薬科大学病院 検査部 伊藤 智咲

生涯教育点数 専門教科 20 点

参加者 会員参加者 42名 非会員 7名

講演1「当院の遺伝子検査～臨床との関わりから考える」

東北大学病院診療技術部 検査部門  
吉岡 翔 技師

講演2「当院病理検査室における遺伝子検査の現状とこれから」

国立病院機構 仙台医療センター 臨床検査科  
佐々木 香穂 技師

講演3「肺癌における遺伝子検査の重要性と今後の課題」

東北大学病院 呼吸器内科 宮内 栄作 先生

15：00 終了

## 内容

今回は遺伝子検査の現状を広く知ってもらう目的で、施設の現状・動向と肺癌の遺伝子検査について、上記の内容で開催した。

吉岡技師は、自施設の検査室の概要、保険点数の詳細、臨床との関わり方を講演いただいた。臨床への発信として、カンファレンスの参加、他の検査結果からモニタリングし、新たな検査や変更について提案しているとの事であった。

佐々木技師には病理検査室内での遺伝子検査の内容、限られた人員で他の業務との両立、スタッフ間での連携について現状と課題を講演いただいた。

どちらの施設も他の業務と両立しながら、検査をして終わりということではなく、積極的に臨床と関わっていることがよく理解できた。

宮内先生には、肺癌の疫学、がん治療について広く講演いただいた。

肺癌は固形腫瘍の中でも個別化医療が最も進んでいるが、院内で肺癌パネルを導入したことは

非常に臨床としても患者さんにとってもメリットのあることで、病理との連携なくてはならないとの事であった。病理診断をもとに、最適化されたアルゴリズムと精度管理が大事なことであるとのメッセージを頂いた。

全ての施設で可能なことではないかも知れないが、自施設で臨床と病理と遺伝子検査を考える、いいきっかけになればいいと感じた。

今回も Zoom ウェビナーを用いた Web 研修会であり、県外からも多くの方に参加頂き、学生や非会員の参加もあった。質問をし難い環境なのか、あまり質問がなかったため、もっと活発な会になるよう運営を工夫し、意見の出し合える研修会を提供していきたい。